



先月ご紹介した姉妹都市10周年記念市民レセプションは去年の11月にオーストラリアに行った訪問団のスケジュールで一番主な行事でしたが、



アダム見聞録

豪に入れば豪に従えの巻

国際交流員 アダム・シモンズ

ケアンズ、シドニー、メルボルンやポート・フィリップ市など、たくさんを回って、参加者それぞれ貴重な経験をしてきたと思います。今回、僕の個人的な思い出を書かせていただきます。

公式訪問団、市民団、大府ボー・ト・フィリップ・シスター・シティ・シンガーズ、大府市民吹奏楽団、各グループが独自のスケジュールで動きました。僕は公式訪問団の一員で、メルボルンに行く前に日豪姉妹都市40周年記念行事に出席するためにシドニーから4時間離れたオレンジという小さい街を訪ねました。ブルー・マウンテンズや数百kmの牧草地を通る長いドライブの途中で、3、4匹のカンガルーを見ましたが、残念ながら車に引っかけた道路のそばで死んでいたものばかりでした。ケアンズでカンガルーに会って、コアラを抱っこできた市民団の方々の

方がラッキーでした。

レセプションのためにポート・フィリップ市でそれぞれのグループが合流しましたが、その翌日公式訪問団は僕を残して日本へ帰りました。その後、市民団の方々と一緒に動きました。大府市民吹奏楽団が11月14日に大府東高校の姉妹校であるエルウッド・カレッジで約1時間のコンサートを開き、エルウッドや周りの小学校の生徒に面白いパフォーマンスを楽しんでもらいました。

ホテルやレストランだけで食事をしてると本当のオーストラリアの味を食べずに日本に帰ってしまうと思い、海岸に近いア克蘭ド・ストリートで、市民団の方にミートパイをご馳走しました。丁寧に言ってくれただけでもいいですが、「美味しい」と言ってくれて少し胸を張りました。(観光客向けに、オーストラリアの味としてめずらしいカンガ

ルーやワニの肉を食べさせているけど、現地の人は食べません！)

合唱団の方々と一緒にメルボルンの東にあるヤラ・バレーというワイン生産地で有名な地域に行きました。広い葡萄園を見ながら白と赤のシャランパンを試飲した後、別のワイナリーに行きましたが昼前に酔っ払いなくなかったので試飲を遠慮しました。僕の故郷がこのヤラ・バレーにあるので、大府の方々が起伏に富んでいる丘や人間より数の多い牛や羊を見てどんな反応をするかを見るのを楽しみにしていました。

約2年振りに帰ったせいか、大府の方々と一緒にオーストラリアを見て、向こうに住んでいた時意識しなかったいくつかのことに気がきました。都会でも広いこと、緑が多いこと、歴史のある建物の美しさ、きれいな水や空気・・・大府市民の目から見ることでできて幸運でした。

でも一番嬉しく思ったのは市民団にとっても積極的に英語を使ったり、ポート・フィリップ市の方々と交流したり、路面電車に乗って自分達で探検したりしたチャレンジャーが多かったことです。こんなに関心を持っている方々の力で大府市とポート・フィリップ市の姉妹都市関係にはとても明るい未来があるに違いありません。



大府市は世界の観光客を呼び集めるリゾート地ではありませんが、実はオーストラリアから何人かのリピーターが大府に来ています。昨年11月の姉妹都市提携10周年記念に大府市民団のポート・フィリップ市への訪問に続き、先月は大府市がポート・フィリップ市からの訪問団のホストになりました。ディック・グロス市長やデービッド・スボークスCEO（最高行政責任者）をはじめ、公式訪問団、市民団、そして大府東高校の姉妹校であるエルウッド・カレッジや石ヶ瀬小学校の姉妹校であるセント・キルダ小学校からの訪問団で合計39人が大府を訪れました。今回の訪問は11日の感動的な歓迎レセプションから始まりました。大府・ポート・フィリップ・シスター・シティ・シンガーズ、横根民謡太鼓同好会、石ヶ瀬太鼓、大府市民吹奏楽団、大府はやし・小唄保存

アダム見聞録

Welcome to Obu! の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

会によるさまざまなパフォーマンスで大府の豊かな文化を紹介。そして、多くの方々はポート・フィリップ側が用意したパフォーマンスにびっくりしたと思います。なんと！グロス市長が元交換職員のパート・クラスティンズさんのギター演奏に合わせて「姉妹都市の歌」を歌いました。最後は、古い友だちも新しい友だちも、大勢の両市民が声を合わせて、深い友情を感じさせられる素晴らしいフィナーレとなりました。大府にいたる間、公式訪問団はいくつかの施設を視察しました。げんきの郷で交通安全の行事に参加したり、新池で蜻蛉の会の



水質浄化プラントを見学したり、ニッ池公園の散策など忙しいスケジュールでした。ニッ池公園にある「セレクトナ」は特に印象的で、ポート・フィリップ市でも同じような自然に触れ合う施設ができれば「セレクトナ」の名前をそのまま使いたいと言われました。同施設の中で紹介されている鳥・虫・魚・動物を見て、大府の自然の豊かさに驚かれたようです。グロス市長は鯉の恋の時期に来て、元気な魚が見れて喜んでいました。大府東高校と石ヶ瀬小学校も訪問しました。小学校の廊下に並べてあった一輪車が目に留まり、全員が乗ること

に挑戦しました。

市民団のメンバーは大府市民の家でホームステイをして、一般の日本の家庭の生活を味わいました。ホストファミリーや大府市国際交流協会の英会話教室の生徒と寿司作りや茶道の体験をしました。オーストラリアでは寿司は人気な食べ物ですが、市民団の多くの方々は自分で作ったことはなかったそうです。寿司や茶道を通して日本の文化に触れ、そして大府市民と交流ができたことが一番よかったと言った女性のメンバーもいました。家族や生活の話で、国が違っても共通点が多いことに気付いて、もっと長く大府にいて新しい友だちと時間を過ごしたかったという声も聞きました。

大府から離れるのが寂しいというメンバーは少なくありませんでしたが、多くのメンバーはいつか、大府に戻ってくると言います。今回の訪問団の中でも、過去に大府を訪ねたことのある方が数人いました。観光地ではないかもしれませんが、ポート・フィリップ市の人たちにとって大府はいつも温かくて寛大な心で歓迎してくれるので、再び来たいくなるほど懐かしいところだそうです。

次回…ポート・フィリップ市訪問団の日本探検旅行



今年の4月15日、表敬訪問のために広島市役所へ伺った4人のオーストラリア人が少し怪しまれながら歓迎されました。それは、リーダーの服装（背広にジーンズ、虹のようにカラフルなサンダル）のせいかもしれません。その人は、大府市の姉妹都市ポート・フィリップ市の市長であるディック・クロス氏でした。14日に大府を出発してから、ポート・フィリップ市の市民団と公式訪問団は一週間をかけて日本中を探検しました。僕も一緒にしました。

最初の目的地の京都。京都市役所の方がクロス市長の豹柄っぽいジャケットに興味を持ちました。「これはオーストラリアでも普通じゃない、気の狂った人しか着ないよ」と、クロス市長は答えました。

しかし、広島では市役所の方々の最初の反応にもかわらず、市民局

アダム見聞録

ポート・フィリップ市来訪団の日本探検旅行の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

長との対面でクロス市長の熱い心はちゃんと伝わりました。以前、被害者の子孫としてアウシュビッツを訪問したが、今回は加害者の子孫として広島を訪問していると、原爆の投下のごとで謝罪しました。「我々には前代の人々のやったことに責任をとって、謝罪する必要がある」とクロス市長は語りました。

訪問団は広島から宮島へ行き、翌日に姫路そして高山へ行きました。宮島の厳島神社を見学した後、旅館の夕食は全員が浴衣姿に挑戦しました。高山では市場を回って、日本の古い町並みを楽しみました。

高山から東京に行きました。多くの外国人にとって、東京は「イコール」日本なので、東京に行かずに日本に来られません。東京にいた間、2つのバスツアー以外は自由行動なので、訪問団の方々がスバゲッティのような地下鉄で迷子になってしま

うことを恐れていました。しかし行方不明者は一人も出なくて、多くのメンバーは日本の鉄道（特に山手線）の使いやすさに喜びました。

市民団のメンバーの間の人気スポットは浅草の浅草寺や仲見世でした。ほとんどの方はそこでお土産を買いました。銀座で買い物をした方もいて、原宿や渋谷で若者のファッションを探しに行った人もいました。

訪問団の方々の日本に対する関心は強くて、できる範囲で日本語を使つて、なるべく多くの日本文化を経験したり、取り入れたいようにしていました。これは東京のあるレストランでウエイтрレスを呼んで、日本茶に砂糖を頼んだ他の外国人の観光客を見た時に気が付きました。ポート・

フィリップ市の方々は日本茶や様々な日本料理を自分の好みに合わせようとせず、出されたまま食べたり飲んだりしていました。外国人にとつて生の肉やお好み焼きの上で踊るかお節は日本の味を楽しむことへの妨害だと思いますが、訪問団の方々にその妨害を乗り越えて、日本の理解を深める意志が強かったです。皆さんがよく解かっていたのは、和食は外見で判断するべからずということだと思います。

市長の派手なサンダルで市長を判断するのもあまりよくないですね。





「オーストラリアは囚人の国だね」と、何年か前に知り合いの日本人から言われました。この人はオーストラリアが昔、囚人の流刑地だったことを話していたのかもしれないが、当時、会話の雰囲気から僕には「オーストラリア人の遺伝子に犯罪性がある」という意味に聞き取れました。160年前の流刑地時代のことを聞いただけで僕を含めたオーストラリア人に犯罪性の遺伝子があると思っている人が本当にいて、少しびびりました。こういう考え方は国際化に対するひとつの妨げで、最近ちょっと心配です。

近年、日本の国際化が少しずつ進んでいる中、街で外国人もよく見かけるようになりました。5月末現在、大府市内に1,793人の外国人が住んでいます。外国人の人口の増加と共に『外国人犯罪』という表現をよく耳にするようになりました。テ

アダム見聞録

「アダム、逮捕!」の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

レビや新聞でよく取り上げられ、外国人の僕でも少し怖くなってきました。財布を奪われるということも怖いのですが、それ以上に怖いのが、散歩の途中に出会った人に外国人だからとして怪しまれて、警察に通報されてしまうことです。少し極端ですみません。でも『外国人犯罪』のニュースを見て、『外国人だから怪しい』や『外国人がいなかったら日本は治安天国になる』と思う人がいるかもしれないと考えるとちょっと悲しいです。

外国人の犯罪はそんなに多いの? と気になったので、少し調べてみました。警察庁によると平成15年における全国の犯罪検挙件数の約6%が外国人による犯罪(この中に不法入国や不法滞在などの日本人には不可能な犯罪も含まれています)だそうです。また、刑法犯の検挙数においては、全体の約4%が外国人の犯罪

だそうです。「あれだけ取り上げられてるのに、たった4%!」と、不思議に思いました。

一部の日本人の犯罪者も『外国人犯罪』という話題に影響されています。去年、関西の方で日本人男性がある住宅に侵入して、女性の居住者に「シヤラップノマネーノマネーノ(静かにしろノ金ノ金)」と『外国人』を思わせるつもりで英語で怒鳴りましたが、居住者がペラペラな英語で言い返したら侵入者が手ぶらで逃げたという、事件がありました。外国人の犯人でも『金』ぐらいは日本語で言うと思います。この侵入者は



ちよつと勉強不足で『外国人』英語圏の人』と思い込んでいたのか、それとも英語を練習したかったのかもしれません。

国際化は外国人の人数で計る訳ではありません。人の意識も重要です。大府市には外国人の貢献を認めて、外国人に声をかけて、外国人と仲良くして、外国人を理解しようとする人が多いから国際化は進んでいると思います。

「外国人犯罪」のようなネガティブなこと集中して全ての外国人を判断するより、真面目に仕事や留学をしに日本に来ている人たちのことを忘れてはいけません。日本の文化や歴史に関心を持って、日本人と仲良くしたい人も多いです。怪しおより、同じ人として見て、声をかけてみましょう。

「ベツカム様、ヨン様」の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

『冬のソナタ』に出演して日本でも大人気になった俳優のペ・ヨンジュンさんです。日本国内では、テレビドラマが何回か再放送されていますが、「冬のソナタ」の人気は韓国と日本だけでなく、アジア各国に及んでいるようです。小説や漫画から「冬ソナ（冬のソナタの略語）でハングル語を学ぶ」ようなテキストまで、本屋でもその人気を感じさせられます。ドラマの中で使われた口ケ地を訪ねたり、俳優に会ったりするツアーもはやっているらしいです。

現在、日本で起きている韓国ブームにも「冬のソナタ」の影響が大きいです。

その人気の理由



Illustration: Adam Simmonds

僕には解かりません。トランプを見る目を、
 日本のものだろ、
 トリアのものだろ
 と恐愛、トランプだと
 ハトリーが解か
 展開が想像しやす
 としめるよ」とか
 逃げ出すよ」とか
 「本当はアイツ
 の赤ちゃんじゃ
 ないよ」とか、
 想像した場面を
 口にして周りの
 人をイライラさ
 せてしまう僕で
 す。でも、こつ
 ちう解かりやす
 さは多くの視聴
 者を安心させる
 ようです。

僕の恋愛ドラマに対する考え方は別として、「冬のソナタ」などの韓国ドラマが日本でも人気になるのはいいことだと思います。「冬のソナタ」にはまっている多くの人たちは韓国に興味を持っていたからというより、話題のドラマが見たいから見たと思いますが、見たら韓国に興味を持つようになる人は多いと思います。また、好きな俳優に興味を持っているという人もいますが、好きな俳優を探すために韓国へ行く人でも現場に行くだけで社会や文化の相違点や共通点に気付いて、韓国への理解を深めていきます。成田空港で「ヨン様」を待っていた女性の中、ハングル語で「愛している」と声をかけたりする人もいて、恥ずかしかったですが、考えてみればその人は「冬のソナタ」の影響でハングル語を勉強しようと思ったかもしれません。ドラマの力は本当にすごいと思います。

来年は日韓国交正常化40周年を迎え、日韓友情年と指定されています。両国の友情を深めるために各地で記念行事が行われると思います。ドラマも日本と韓国の両国民の間に架かる橋の一つなので、「また冬ソナ見てるの?」と旦那さんに言われたら「国際理解を深めているから」と答えてもいいと思います。



「姉妹都市交流」と言われたら、多くの人は、偉い人たちが相互訪問するという「交流」を想像するのではないだろうか。こういう形だけの「姉妹都市交流」が実在したら、非常にもったいないと思います。せっかく違う国の町と仲良くなったのに、一般市民が交流に参加できないのは残念です。

大府市とその姉妹都市であるオーストラリアのポート・フィリップ市の場合は、有意義な交流になるように市民の参加は最初から重要とされています。今までの11年間の交流では、中学生海外派遣のような市の行事のほか、蜻蛉の会とポート・フィリップ市のアースケアのような市民団体の交流、そして個人の交流が続いています。これらの交流で、両市民の間の相互理解が深くなってきました。

毎年開催されているオーストラリ

アダム見聞録

ポート・フィリップ市と大府市が賞を取りました！の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

ア姉妹都市協会（ASCA）の協議会では、外国の都市と姉妹都市提携をしているオーストラリアの市町の中で最も有意義な交流をしているいくつかの市町に賞を贈ります。8月の初めに開催された今年の協議会では、ポート・フィリップ市と大府市の交流活動の一つである職員交換派遣事業が「文化交流」のカテゴリーで賞をもらいました。



両市の交流活動がASCAに評価されたのは初めてではありません。1998年に、ポート・フィリップ市内に住んでいるペンギンの保護活動

の支援で、すでに賞をもらっています。

「存じのかたもいると思いますが、

職員交換派遣事業とはポート・フィリップと大府のそれぞれの市の職員が相手の市で最長3カ月滞在するという事業です。行政間の事業なのでもちろん行政サイブスの見学や比較が一つの目的ですが、派遣された職員自身が企画したプロジェクトを滞在期間中に実行しなければなりません。このプロジェクトの一つの条件は市民とかわる事業を実施することです。

この事業で今まで3人のポート・

フィリップ市の職員が大府へ派遣されて、図書館の外国図書コーナーの設置、姉妹都市合唱団の団結、清掃運動や小学生の環境ポスターの展示など、様々な面で大府市民と交流しています。

ポート・フィリップ市がASCAに提出した書類では、今年の初めにポート・フィリップ市に派遣された大府市の保育士浜島千恵美さんの活動が取り上げられました。浜島さんはポート・フィリップ市の子ども福祉を担当する部署に所属し、子どもに絵本を読んだり、折り紙を教えたりして、日本文化に関心を持たせました。また、子どもだけでなく、その保護者や保育所、図書館の職員への影響も大きかったです。こうした活動が評価され、今回の職員交換派遣事業が「両市民の間の文化の相違点に意識や関心を持たせる刺激となった事業」としてASCAに選ばれました。

次の職員交換派遣事業は来年に行う予定で、ポート・フィリップ市の職員が大府市に派遣されます。どんな人が来るか、どんなプロジェクトをするかはまだ不明ですが、来る人は大府市の皆さんに会うこと、新しい友だちを作ること、そして両市民の間のきずなを強めることを楽しみにしていることは確かです。



アダム見聞録

万博で地球と仲良くなる巻

国際交流員 アダム・シモンズ

来年、愛知県内で万国博覧会が開催されることをご存じないかたは少ないと思います。どこを見ても愛・地球博のマスコットであるモリゾーとキッコロが目に入ります。初めは、万博に反対していた僕ですが、最近万博の開催によって私たちに色々な機会ができる気がしました。まず、愛・地球博のテーマ『自然の叡

智（えいち）』から考えると、自然がわれわれ人類にどんなことを教えてくれているか、自然が人類にとってどれだけ大事なものかなどは見られるかもしれません。それから、大府市の日では、愛知県、日本、そして世界に私たちの大府市を紹介する機会もあります。もう一つの機会は愛知県から出ずに世界が見られるこ



どの国の国旗かわかるかな?

とです。「海外」や「外国」と言われたら多くの人は欧米などの先進国を考えるといます。これは二ユースなどで先進国のことがよく取り上げられているからだと思います。発展途上国が二ユースで取り上げられたら、ほとんど災害が日本人がその国で不幸な目にあった、というふうなことです。その結果、多くの人は発展途上国は「危ない」と考えるけど、その国の文化、歴史、社会についてはわからないままです。9月末現在、愛・地球博に私たちの耳によく入る名前の国から、日本であまり知られていない国まで、127カ国が展示するそうです。テレビやインターネットだけではわからない各国が誇りに思っている文化や技術を紹介しに来ます。万博の期間中、各パビリオンでの展示の他に、各国のナショナル・デー（その国の日）にパフォーマンスなども開催さ

れます。先進国だけでなく、様々な国について学ぶ機会になります。

万博に参加する国と県内の市町村の交流を行う「一国一市町村フレンドシップ事業」もあります。この事業では、一つの市町村が一つの参加国のパートナーになります。大府市のパートナー国は3つあります。安城市と共同でオーストラリア連邦、一宮市と共同でキリバス共和国、それから独自でコンゴ民主共和国と交流します。大府市の姉妹都市であるポート・フィリップ市はオーストラリアにあつて、このコーナーで時々書かせてもらっているのだからかたは多いと思いますが、「コンゴ民主共和国?! キリバス共和国?!」どこ?!」と思っているかたも多いでしょう（僕もその1人でした）。コンゴやキリバスの情報はなかなか手に入らないのでわからないかたは恥ずかしいがらないでください。来月と再来月のこのコーナーでコンゴ民主共和国とキリバス共和国を紹介しましょう。

来年の万博で愛知県がさらにインターナショナルになると思います。もちろん大府市民も。是非、万博を契機に色々な面で地球と仲良くなっていきたいですね。

次回…コンゴもよろしく!



愛知万博のフレンドシップ事業で
大府市の相手国の一つであるコンゴ
民主共和国について、どのくらいご
存知ですか？ コンゴ民主共和国は
アフリカの真ん中にある国です。
「コンゴ民主共和国」より「ザイ
ール共和国」（1971年から199



アダム見聞録

フレンドシップ国を知ろう！①

コンゴ民主共和国の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

7年までの国名)として知っている人は多いでしょう。ボクシングの好きなあなたはコンゴの首都であるキンシャサで、30年前に行われたモハメッド・アリとジョージ・フォアマンの対決を覚えているかもしれません。でもコンゴを知っている多くの人には内乱で不安定なところだと認識しているでしょう。歴史を見ると、コンゴの人々は長い間大変苦しんできた事がわかります。

1885年に、ベルギーの面積の80倍(日本の約7倍)もある地域が、ベルギーの国王レオポルド二世の個人の土地になって、コンゴ独立州(現在のコンゴ民主共和国)になりました。

欧米の国々の支持を求めたレオポルドはコンゴ人を奴隷売買から守ると主張したが、コンゴを訪れた宣教師や旅人は現実にショックを受けました。大勢のコンゴ人が強制的に人夫にされて、長距離荷物を持たされ

て、多くの人が犠牲になっていました。(1891年に970kmの旅に出たある遠征隊に随行した約300人の人夫の内、出発地に戻った人は1人もいませんでした)当時のコンゴの主な産物であるゴムや象牙の採集もコンゴ人の人夫がやらされました。ベルギー人の主人の指示に従わせるように家族が人質にされたりする事が多かったです。命令に従わなかったコンゴ人は鞭打ちや死刑など厳しく処罰されました。コンゴの人々は自分の国で奴隷にされただけです。コンゴ独立州で約1千万人のコンゴ人が犠牲になったと推定されています。

レオポルドの残虐な政権は欧米で強く批判され、コンゴは1908年にレオポルドの個人の物からベルギーの植民地になりました。しかし支配者が変わってもコンゴ人にとって状況はあまり変わりませんでした。1960年にやっとベルギーから

独立ができたが、コンゴの悲しい歴史はこれで終わった訳ではありません。コンゴの資源の豊かさで未来が明るく見えたが、トラブルの原因にもなりました。ダイヤモンドの産地で知られているコンゴは、銅、鉛、ゲルマニウム、銀、金、錫、マンガンなどの希少鉱物にも恵まれています。広島と長崎に落とされた原爆で使われたウランはコンゴの物でした。こういう資源の支配を望む者は国内だけでなく、外部にもいて、1998年から2002年まで続いた紛争に約10カ国が表や裏で参戦しました。

コンゴ民主共和国はまだ不安定なイメージが強いですが、外部からの妨害や戦争に疲れたコンゴの人々は平和と民主主義を望んでいます。政府も国民の希望のもと、安定した国を作るために努力しています。来年の6月に、独立した1960年以来的の総選挙が予定されています。5月31日に行われる愛・地球博のコンゴ民主共和国のナショナル・デイは、コンゴを知るのに、いい機会になるでしょう。未来の事はわかりませんが、コンゴの人々が自分たちでどんな未来を作っていくか見ておきたいです。

次回：コンゴ大使が語る「今後のコンゴ」



コンゴ民主共和国の大使マルセル・ムールンバ・チディンバ閣下



愛知万博のフレンドシップ事業で
大府市の相手国の一つはコンゴ民主
共和国です。(コンゴ共和国と間違
えないよう、ご注意ください。両国
はアフリカの中央にあつて、その間
に流れているコンゴ川から名前を
とっています) 今年の2月に、コン
ゴ民主共和国の大使マルセル・ム
ールンバ・チディンバ閣下が大府市を
訪問しました。

「コンゴ」や「ザイル」という
国名が有名なのに、国自体のことは

アダム見聞録

フレンドシップ国を知ろう! ② コンゴ大使が語るコンゴの巻

国際交流員 アダム・シモンズ

あまり知られていません。コンゴの
万博への出展や大府との交流でこの
事態が変わることを大使は望んでい
ます。「日本の方々が本当のコンゴ
を見ていただけるとうれいです」と大
使は話しました。

私たちがアフリカを想像すると、
ジャングルのイメージが強いでしょ
う。アフリカの熱帯雨林の47%がコ
ンゴにあつて、自然の豊かな国です。
希少鉱物も多いですが、森林もコン
ゴの主な資源です。

コンゴには珍しい動植物もたくさ
んいます。象(昔、象牙はコンゴの
主な輸出品でした)、カバ・サイ・
ゴリラなど、私たちが想像するアフ
リカにいろいろな動物が全部そろつて
います。中でも有名な動物は霊長類
で知能の高くて人間に近いと言われ
ているチンパンジーの仲間「ボノ
ボ」です。コンゴにしか生息してい
ない「オカピ」という動物もいます。
オカピはキリンの仲間で、シマウマ

と馬の子ともかと思わせるようなこ
ても不思議な動物です。

コンゴにもいくつかの民族があり
ます。文化も豊かで、地域によつて
美術や手工芸品が違います。大使は
コンゴの南西に住むホーヨ族の木製
の面を大府市に贈呈してくれました。
また、コンゴの人たちは特に音楽が
好きで、どこにいても音楽が聞こえ
るそうです。

コンゴの公用語はフランス語で
すが、リンガラ語などの現地の言葉も
よく使われます。大使によると、リ
ンガラ語を聞いた日本人は、一瞬日
本語で話しかけられていると思つて
しまうほど日本語の発音に近いそう
です。「コンドール」という名前のコ
ンゴ人がたくさんいるそうですが、
その祖先に「近藤」という日本人が
いた訳ではなく、ただの偶然にすぎ
ません。日本語に聞こえる単語や表
現がたくさんありますが、実は全く
違う意味のものです。例えばリンガ

ラ語の「スキ」は「髪の毛」で、
「ミン」は「目」という意味です。
もしコンゴの人に「今晚は」に似た
リンガラ語の「コンバアフ」と言わ
れたら、夜の挨拶ではなく、「ここ
を掃除しなさい」という意味です。
発音が似ているので、リンガラ語は
日本人にとって覚えやすい言葉かも
しれません。

私たちが「コンゴ」と聞くとジャ
ングルをイメージしてしまう(実は
首都のキンシャサは現代的な都会で
す)のと同じように、日本に関して
ちよつと変なイメージを持っている
コンゴ人もたくさんいます。大使が
コンゴに帰ると、「侍にあつたの
か」と聞かれるそうです。

「大府市がコンゴ民主共和国の
パートナーになつて、その交流で、
コンゴ国民と大府市民の相互理解が
深まるとうれしい」と大使は話して
いました。万博のパビリオンでコン
ゴ民主共和国がどんな形で日本と世
界に自己紹介をするかはまだわかり
ませんが、万博に行ったらぜひパビ
リオンに寄ってみてください。

来年の2月に、大府市内でコンゴ
の音楽のパフォーマンスも企画され
ています。詳しい情報は後日広報お
おぶに掲載します。お楽しみに!

次回…日の昇る国キリバス